

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年11月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072300211
法人名	株式会社 和
事業所名	グループホームやさしい家
所在地	藤岡市鬼石180-3 (電話) 0274-52-2008

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年11月4日

## 【情報提供票より】(平成21年10月14日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	40,000円~42,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 400円/日 旅行費 1,000円/月
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日1,100円		

### (4) 利用者の概要(10月14日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	70歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鬼石病院、伊東歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

割烹料理店を改修した事業所は、町の中心部にある。商店街で食材や個人の買い物をしたり理髪店の利用をしたり、道路清掃や葬式の手伝いをしたり、祭りの準備や祭囃子の練習に参加して入居者も山車の綱を引き、祭りの2日間は道路に面した庭で夕食を摂り祭りを見物する等地域との付き合いを重視した運営を行っている。また、墓参りや一時帰宅、美術鑑賞やラグビー観戦、毎日の入浴や夕食後の入浴など個別ケアを大切に支援をしている。家族も参加する一泊旅行では入居者のカラオケや詩吟或いは職員の隠し芸を楽しんだり、季節には花見や前橋の敷島バラ園見物をしたり、弁当やビールを持参しコスモス畑でバーベキューを楽しむなど充実した日々を過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の改善課題である「地域密着型サービスとしての理念」は、職員会議で検討し見直しを行っている。「重度化や終末期に向けた方針の共有」については協力病院の指導を受け、「重度化・終末期ケアに関する指針」を作成し家族に説明して全員で方針を共有している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、白紙の用紙を全職員に配布し職員一人ひとりが記入したものを管理者がまとめている。今後は、月2回開催している職員会議に勉強会を取り入れ、職員の資質向上を図ることとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では事業所の運営状況や介護保険制度の改正・前回外部評価の改善課題の取り組み状況等を報告し、意見交換を行っている。また、消防分団長を委嘱し、消火活動や避難訓練時等の注意事項を話して頂き、訓練に役立させている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「やさしい家だより」を毎月発行し、外出や食事風景を掲載すると共に、「個人状況」欄が設けられ日常生活の状況や健康状態が記載されている。面会時に家族の意見や苦情を汲み取り、要望や苦情に対して話し合いを行い改善に取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>商店街で食材の買い物や理髪店を利用したり、道路清掃や葬式の手伝いに参加したり、祭りの準備や祭囃子の練習に参加して入居者も山車の綱を引いている。また、「やさしい家だより」に介護相談日を掲載し、地域の方々に入居者と共に配布している。事業所は何時でも気軽に立ち寄れる環境整備を図るなど、地域の方々との付き合いができるよう努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4月以降半年間にわたり職員会議で検討を行い、地域の人々や利用者と共に喜びや悲しみを共有し生きがいのある生活づくりを目指し、「あなた、私、家族もみんな一緒につながって」「いつでもどこでも気楽なお付き合いを」「あなた自身を受け止め、ら・し・い生活を」を創りあげて掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を入居者と共に毎朝唱和している。入居者から「らしい生活」とはどのような生活かと質問があり、「〇〇さんの意向に添った、制約のない毎日がおくれる生活です」と説明し、入浴や食事、美術鑑賞やスポーツ観戦、散歩や買い物など個別ケアに力点を置いたケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	商店街で食材の買い物や理髪店を利用したり、道路清掃や葬式の手伝いに参加したり、祭りの準備や祭囃子の練習に参加して入居者も山車の綱を引いている。また、「やさしい家だより」に介護相談日を掲載し、地域の家々に入居者と共に配布している。事業所は何時でも気軽に立ち寄れる環境整備を図るなど、地域の方々と普段の付き合いができるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、白紙の用紙を全職員に配布し職員一人ひとりが記入したものを管理者がまとめている。自己評価から、月2回の職員会議で勉強会を開催している。前回外部評価の課題である「地域密着型サービスとしての理念」及び「重度化や終末期に向けた方針の共有」について、職員会議で話し合い改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、事業所の運営状況や介護保険制度の改正・前回外部評価の改善課題の取り組み状況等を報告し、意見交換を行っている。会議で、消防分団長から消火活動や避難訓練時等の注意事項を話して頂き、訓練に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種提出書類を市役所に持参した折りや担当職員が資料を持って事業所に来所した時に、制度改正や情報公開等について指導を受けている。また、藤岡市と地域密着型サービス連絡協議会の共催による「認知症サポート養成講座」を、管理者が講師となり市役所会議室で開催している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	流しそうめんの食事風景や外出行事の状況等が掲載された「やさしい家だより」を毎月発行し、面会時や利用料請求書に同封し配布している。また、「やさしい家だより」に「個人状況」欄が設けられ、個人毎の日常生活の状況や健康状態が記載されている。金銭管理は自己管理している人の他は立替金処理し、利用料請求時に領収書を同封し精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の意見や苦情を汲み取るようにしている。また、重要事項説明書にホームの相談窓口と外部苦情申立機関を明記し、入居時に説明している。家族から「何時も同じ洋服を着ているので時には変えて欲しい」との要望や「伝達の連携が悪い」との苦情に対して、申し送り時に話し合い改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去2年間職員の退職はなく、定着している。新規採用職員には「初任者研修テキスト」に基づき、設立趣旨や理念、重要事項等について研修を行うこととしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴等に応じ計画的に受講する機会を与え、認知症実践者研修や基礎研修を受講し、受講後は研修報告書を作成しミーティングで発表している。今後は職員会議に勉強会を取り入れ、職員の資質向上を図ることとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会が主催する新任研修やリーダー研修を受講している。職員相互派遣研修や見学研修の参加者は、事前学習書や報告書を作成し、発表している。また、管理者は連絡協議会の役員に就任し、大会や総会等に出席し交流を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ。安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時に家庭訪問を行い、「基本情報(フェースシート)」や「発症シート」で生活歴や病歴等を調査し、家族と本人が見学を行い入居者とお茶を飲んだりおやつを食べるなどして、事業所の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理を業としていた入居者から卵焼きの味付けなどを教わり、書道の得意な人からは書を習い、政治や経済に興味を持つ入居者は新聞やテレビで得た情報を職員に伝え話し合ったりしている。また、洗濯物やおしぼりたたみをしたり、テーブルを使用した卓球などの室内遊戯を共に行うなど、理念である喜びを共有し生きがいのある生活を目指した支援を行っている。		
<b>Ⅲ。その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人で散歩を希望する人には職員が付き添ったり、美術館や博物館を見学するなど個別ケアに取り組んでいる。意思表示の難しい入居者の日々の行動や会話内容を詳細に記録して分析し、入居者の思いや気持ちを理解するよう心がけてケアに繋げるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望等は面会時に把握し、介護計画に反映している。毎月開催するカンファレンスには夜勤者を除く全職員が出席し、入居者個々の希望や家族の意向を反映した介護計画を作成しているが、計画書の中に入居者や家族の意向・希望等が記載されていない。	○	家族の意見や希望等を介護計画書に記録するよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しの他、退院等に伴いリハビリを必要とするなど課題が発生した時点で現状に即し見直し、計画書を家族に交付し、要望を聞くなどの話し合いを行い、家族は記名押印している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 <sup>る</sup> の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	従前から利用していた美容院や墓参りに職員が同行し、かかりつけ医や皮膚科等の専門医の受診も職員が付き添っている。また、医療連携の指定を受け協力病院の看護師が定期的な訪問看護に当たっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医としている。入居者の多くが協力医療機関である鬼石病院をかかりつけ医として入居後も受診しており、入居者は散歩がてら診察を受けている。協力病院とは「重度化・終末期ケアに関する指針」を作成、指導や緊急時の24時間対応等適切な医療を受けられる体制が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関である鬼石病院の指導を受け「重度化・終末期ケアに関する指針」を作成している。家族に説明し、入居者が重度化・終末期を迎えた際の意向を聞いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録に他人名が記載される場合や居間に掲示している入浴チェック表・申し送りでの呼称はイニシャルが用いられ、「やさしい家だより」の顔写真は家族の了解を得てイニシャルで掲載している。和室の居室には暖簾が掛かり、入室に際しては必ず「入ります」と声かけを行うなど日々の関わりの中で入居者の誇りやプライバシーを損ねない介護を話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人で散歩に行く人・昔からの理髪店を利用する人・夕食後に入浴する人には、それぞれの希望に沿った支援を行い、帰宅願望の人には利用料請求書を持参する職員と同行し一時帰宅するなどの個別支援をしている。また、毎月の当番を決めて、入居者の希望を取り入れた歴史博物館や美術館・ラグビー観戦等の外出計画を作成し、1対1の外出支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を刻む等の下拵えや炒め物をしたり、おしぼりを配ったり、お茶を入れたり、下膳や食器洗いをするなど準備や後片付けを行い、職員と談笑しながら食事を取っている。また、晩酌に日本酒や焼酎を飲む人もいる。時には夕食後は皆で梅酒やワインなど好きな物を飲み歓談するなど、食後の楽しい一時を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表が居間の壁に掛けられ、8名が毎日入浴もしくは希望や状況に応じて入浴し、1名が夕食後に入浴している。入浴を拒否する人には、時間をおいて勧誘している。ぬる湯の好きな人や熱目の湯が好きな人などの希望を取り入れ、ゆったりと時間をかけ会話を楽しむ中から入居者の意向把握に努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食器拭き、掃除をする等入居者の力量に合った役割を担っている。また、ボランティアと暮を打ったり、弁当やビール持参の花見やブドウ狩りを兼ねたドライブをしたり、事業所の前を通る山車を見物しながら夕食を取ったりしている。家族も参加する年1度の一泊旅行では入居者のカラオケや詩吟あるいは職員の隠し芸などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近隣の多目的ホールの公園を散歩したり、夏は近隣の庭を借り大樹の下で涼んだり、通院を兼ねた散歩や町内の商店で食材や個人の買い物をするなど日常的に外出している。また、出入りは自由なので一人で散歩に出かける人もいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊者には見守りや言葉かけを行い、近隣の人々の協力を頂き事業所への通報や誘導を依頼している。徘徊者が毎日着る服装、色合いや柄を記録して不明時に警察等へ通報するための配慮を行うなど、開設当初から鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導を受け、夜間を想定した避難・消火・通報訓練を行っている。近隣の人々には訓練のチラシを入居者と配り、地域の人々と共に消火器の使用方法や避難訓練を行っている。また職員は、年2回消防本部の主催する普通救命講習等を受講している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録を行い、栄養バランスを考慮して同じメニューにならないよう調理している。また、入居者の希望を取り入れた料理や身体状況に応じた刻み食を提供している。食事摂取割合を個人毎に記載し、水分摂取の少ない人は摂取量を個人票に記載している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	割烹料理店を改修した事業所は町の中心部にあり、開放された玄関脇のプランターには菊の花が咲き誇っている。2つの和室の居間には足の長い炬燵が置かれ、周囲にはソファや椅子が配置され居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットや洋服ダンス等の家具や調度品は、総て入居者が持参している。父親が乗っていたセスナ機の写真や孫の結婚式の写真が飾られたり、以前に書いた書などが掛けられている。		